



編集・発行 邑楽町役場企画課  
〒370-0692(住所記入不要)  
☎0276-88-5111(代表)  
☎0276-47-5007(企画課直通)  
☎0276-89-0136  
http://www.town.oragunma.jp  
✉koho@town.oragunma.jp

邑楽町携帯サイト  
2次元コード対応の携帯電話は、右のコードをご利用ください。読み取りができない場合はURLをご入力ください。  
携帯用URL http://www.town.oragunma.jp/k



〈第六十一回〉

若い人たちに語り継ぎたい、  
次の世代に残しておきたい。  
貴重な話をお届けしますー。

## あすへひとこと

いつの時代までも残したい

### 邑楽町の昔ばなし



赤堀の長良神社に続く道。鳥居の向こうは今も少し低くなっています。ここに洪水がよく起こる川があり、大蛇川とも呼ばれていたそうです。

### 長良の人柱

昔、赤堀の長良様へ行く道に人橋と呼ばれる橋がありました。

この辺は非常に低い所で、毎年のように洪水に見舞われ、そのたびに橋が流されてしまいました。土地の人たちは寄り集まって、どうすれば流されない橋が出来るか、と知恵を出し合いました。しかし、なんととても良い方法は見つかりませんでした。みんな、困り果て黙ってしまいました。

そんな時、橋の近くに往んでいる一人の老人が「人柱を立ててはどうか。人柱のおかげで橋が流されずに済んだという話を聞いたことがある」という意見を出しました。しかし、誰が人柱になるのか、そんなかわいそうなことはできるまいと一座は騒然となりました。しばらくして、さっきの老人が「村の者で、着物の裾に白い布のついている者を指定しようではないか」と言いました。

人々はお互いに顔を見合わせ驚いた様子でしたが、着物の裾に白い布の付いている人がいるかどうか、確かめ合いました。その結果、なんと白い布が付いていたのは、先ほど「人柱を立てよう」と言った老人その人でした。老人は、どうして私かと嘆き悲しみま



したが、村人が手を合わせる中を、生きながら人柱となって、川底深く消えて行きました。それからは、洪水になっても橋が流されることはなかったそうです。

その後間もなく人柱になった家の娘が、隣村の赤岩(千代田町)に嫁ぎました。娘はおとなしくて、器量もよく、仕事も熱心でしたから嫁ぎ先の家でも、大変かわいがられていました。

しかし、困ったことに三年たっても、少しも口をききませんでした。とうとう、婿さんが嫁さんの実家と相談して、離婚することになってしまいました。

そこで、婿さんが嫁さんを連れて、鞍掛山まで来ました。すると、ケン、ケーンと雉が鳴いて飛び立った、と思つた瞬間、ドカーンという鉄砲の音とともに、撃ち落とされてしまいました。

この様子を始めから見えていた嫁さんがその時「口故に、祖父は長良の人柱、雉も鳴かすば、撃たれまいもの」と即席で歌を声を出して詠み上げました。

そばにいた婿さんは、驚くの、喜ぶの、それはそれは大変でした。離縁は取り返し、嫁さんに謝って、赤岩の家に引き返したそうです。

嫁さんが今まで口をきかなかったのは「口は災いの元」という、親の教えを守っていたからだだったのです。

【発行】邑楽町老人クラブ連合会 【編集】あすへひとこと編集委員会  
平成10年12月31日発行「高齢者の語り(第六集)あすへひとこと」より



日没の風景  
(中央公園)



Photo 高根澤高明(記録ボランティア)

### ひとりごと From editors

▶空も風も太陽もすっかり秋らしくなりましたね。だいぶ過ごしやすくなったので、運動するにはもってこの季節到来! ▶ということで、わが家では度々、親子3世代卓球大会が開催されます。ダイニングテーブルを卓球台に、ミニチュアラケット(私が子どもの頃遊んでいた30年物)で戦うのですが、微妙な大きさの台とラケットが、うまい具合に笑いを誘います。▶勝敗としては常に私がペケですが、いい汗をかき、子どもたちと祖父母が大笑いしながら卓球をしている光景はとてもほえましく、幸せをしみじみ感じることができます。▶今年はオリンピックヤーでしたが、夢中で応援することも、楽しみながらスポーツをすることも、心身ともに元気になると実感した「2016夏と秋」です。(久保田)



この広報紙は、自然保護のため  
植物油インキを使用しています。